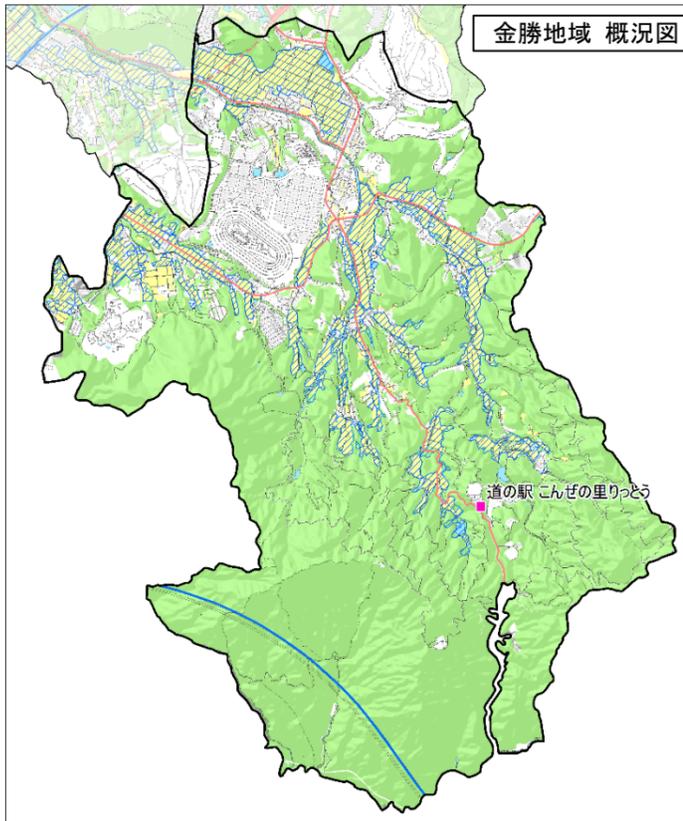


1. 金勝地域の概要

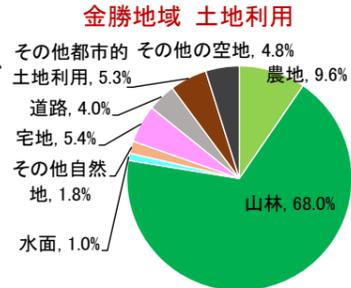


(位置及び地勢)

金勝地域は、栗東市南部に位置し、本市最高峰である阿星山（標高 693m）や龍王山をはじめとした金勝連峰の山地・山麓に広がる地域です。

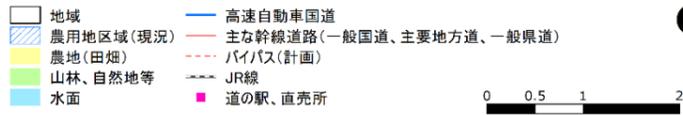
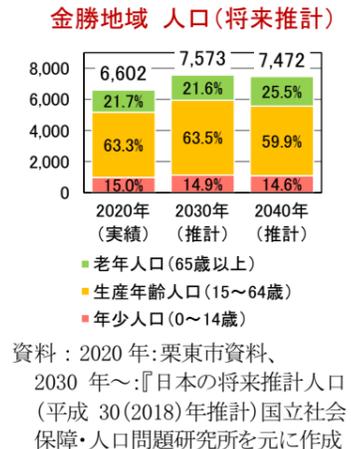
(土地利用)

地域の土地利用は、山林が約7割と大多数を占め、農地は1割弱となります。宅地や道路、その他都市的土地利用が1割強を占めています。



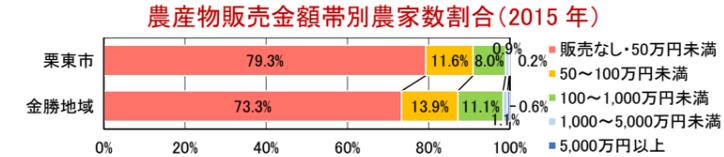
(人口動向)

地域の人口は、2020年9月時点で6,600人超となります。今後、人口は2030年頃まで増加し、その後減少に転じると予測されます。また高齢化は、2040年には4人に1人以上が65歳以上となると予測されます。



(農業の規模)

本市は、農産物販売金額が100万円未満の農家が約9割を占めています。金勝地域をみると、概ね市全体と同様の傾向を示しますが、50万円未満の農家が比較的少なく、50万円～1,000万円未満の農家が比較的多くなっています。



(その他関連施設、地域の活動など)

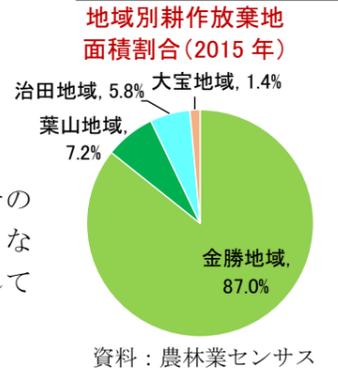
- ・関連施設：道の駅こんぜの里りっとう
- ・棚田保全活動（走井地区）
- ・農業体験、都市×農村交流イベント（ハーベストイン走井）等



資料：栗東市資料



資料：栗東市資料、滋賀県資料、明日の走井を考える会資料ほか



資料：農林業センサス

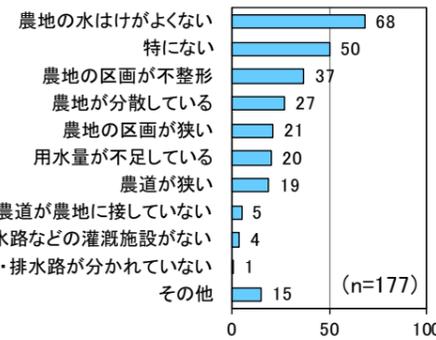
3. 農業従事者の意向 — アンケート調査結果より —

「栗東市の農業に関する農業従事者アンケート調査」栗東市内で農地を所有する農業従事者を対象としたアンケート調査（令和2年10月実施、有効回答数704票（回収率66.5%））

(農業生産基盤の課題)

・農業生産基盤の課題として、「農地の水はけがよくない」が最も多く挙げられています。

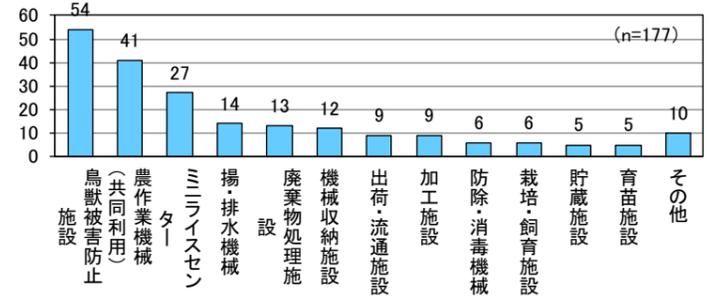
農業生産基盤の課題(金勝地域)



(地域に必要な施設等)

・地域に必要な施設、機械として、「鳥獣害防止施設」が最も多く、次いで「農作業機械（共同利用）」が挙げられています。

地域に必要な施設、機械(金勝地域)

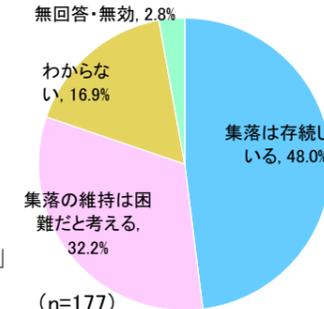


(地域の今後、地域の農地整備の方向性)

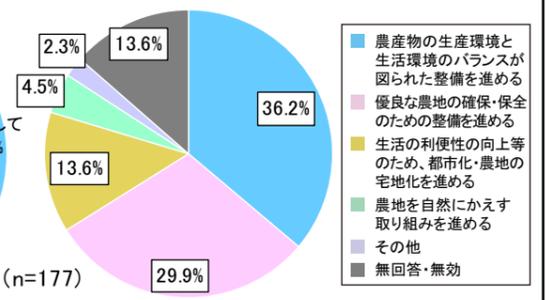
・地域（集落）の10年後の姿について、「集落は存続している」が約48%となりますが、市全体（回答者全体：約52%）と比べてわずかに低い割合となっています。

・地域（集落）の農地整備の方向性として、「バランスが図られた整備」に次いで「優良な農地の確保・保全」が多く挙げられています。

地域(集落)の今後(金勝地域)



地域(集落)の農地整備の方向性(金勝地域)

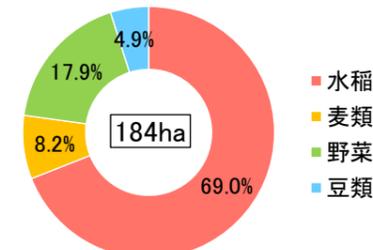


2. 金勝地域の農業の現状 — 統計データより —

(作物別作付面積)

地域における農産物の作付面積は、2015年時点で約184haとなります。うち約7割が水稲となり、次いで2割弱が野菜、1割弱が麦類となります。

金勝地域 作物別作付面積割合(2015年)



(注) 販売目的の作付面積(穀類・野菜・果樹)合計 居住地以外にある土地(集落外、市外)の作付を含む

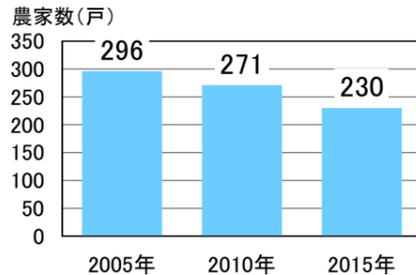
秘匿データは集計に含まれていない
資料：農林業センサス

(農家数、農業従事者数)

地域の農家数は、2015年時点で230戸となり、2005年と比べて8割弱にまで減少しています。

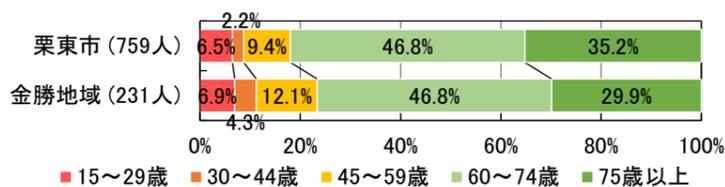
農業従事者の年齢構成をみると、60歳代以上が8割近くを占めますが、市全体との比較では50歳代以下の割合が比較的高い地域となっています。

金勝地域 農家数の推移



※農家：経営耕地面積が10a以上の農業を営む又は農産物販売金額が年間15万円以上の世帯
資料：農林業センサス

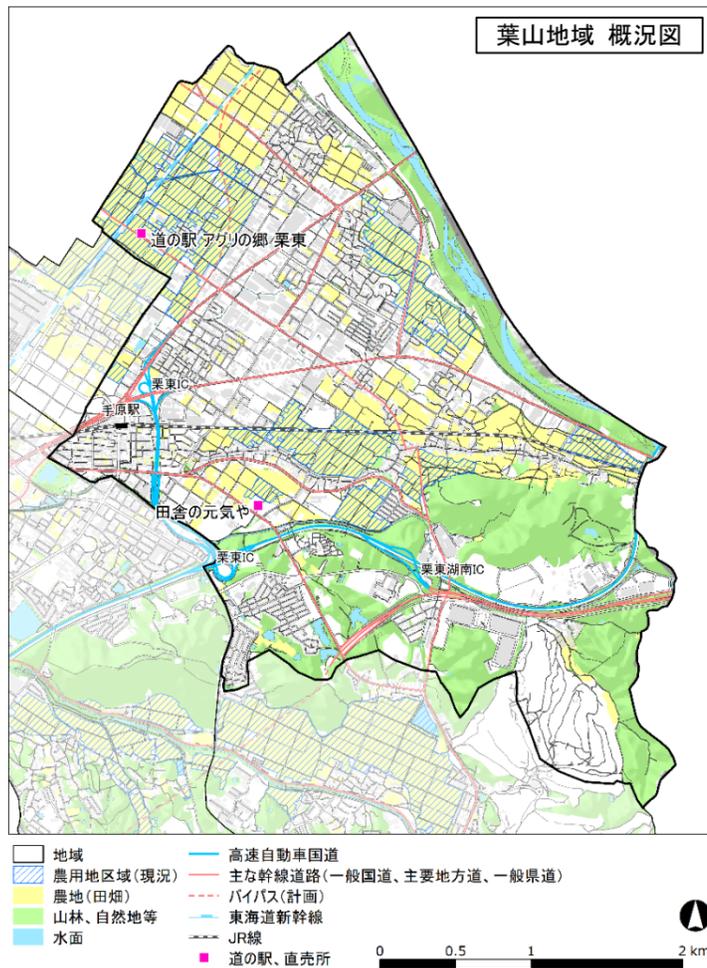
農業従事者**の年齢構成(2015年)



※**農業従事者：主に自営農業に従事した世帯員数
資料：農林業センサス

栗東市農業振興基本計画検討資料 地域別の概況 葉山地域

1. 葉山地域の概要

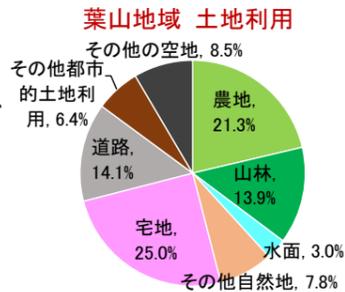


(位置及び地勢)

葉山地域は、栗東市中央東部に位置し、野洲川左岸に沿って平地が広がり、JR 草津線手原駅や栗東 IC、栗東湖南 IC など交通アクセスに恵まれた地域です。

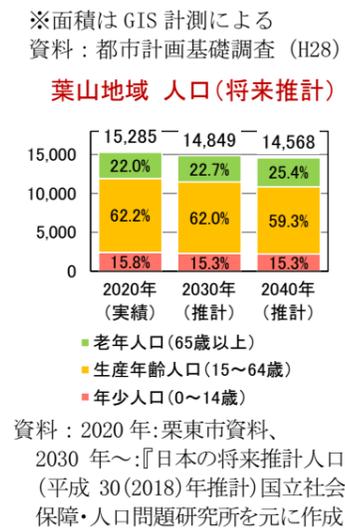
(土地利用)

地域の土地利用は、宅地及び道路が約 4 割と大半を占めています。農地は、野洲川左岸を中心に 2 割強を占めています。



(人口動向)

地域の人口は、2020 年 9 月時点で 15,200 人超となります。今後、人口は概ね横ばい～減少傾向が続くと予測され、また高齢化は、2040 年には 4 人に 1 人以上が 65 歳以上となると予測されます。

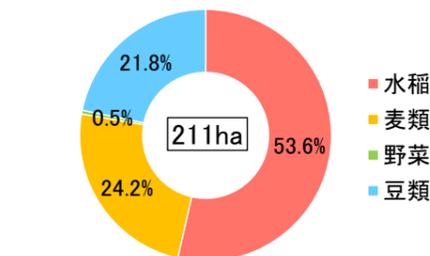


2. 葉山地域の農業の現状－統計データより－

(作物別作付面積)

地域における農産物の作付面積は、2015 年時点で約 211ha と市内の各地域との比較で最も多くなります。うち 5 割強が水稲となり、次いで麦類、豆類がそれぞれ 2 割強を占めます。

葉山地域 作物別作付面積割合(2015 年)



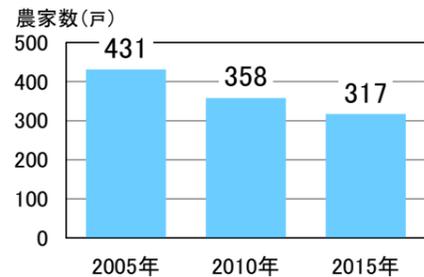
(注)販売目的の作付面積(穀類・野菜・果樹)合計
居住地以外にある土地(集落外、市外)の作付を含む
秘匿データは集計に含まれていない
資料：農林業センサス

(農家数、農業従事者数)

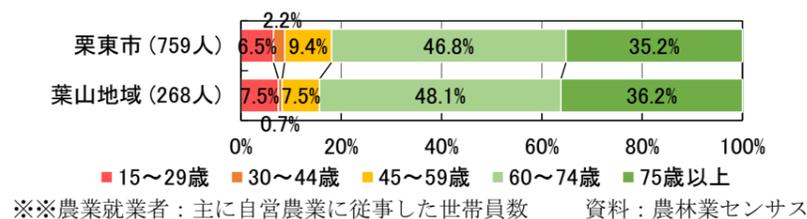
地域の農家数は、2015 年時点で 413 戸となり、2005 年と比べて 7 割強にまで減少しています。

農業就業者の年齢構成をみると、60 歳代以上が 8 割強を占めており、市全体と比べても 60 歳代以下の割合が高い地域となっています。

葉山地域 農家*数の推移



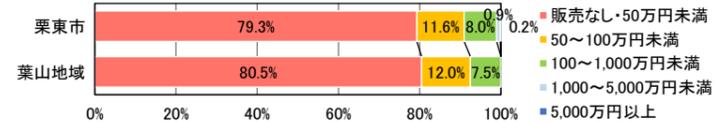
農業就業者**の年齢構成(2015 年)



(農業の規模)

本市は、農産物販売金額が 100 万円未満の農家が約 9 割を占めています。葉山地域をみると、概ね市全体と同様の傾向を示しています。

農産物販売金額帯別農家数割合(2015 年)



(その他関連施設、地域の活動など)

・関連施設：道の駅アグリ、田舎の元気や

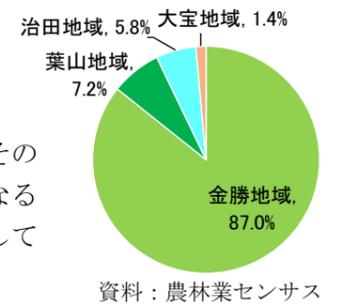


資料：栗東市資料、JA レーク滋賀 (JA 栗東市) 資料

(耕作放棄地)

耕作放棄地は、市全体で 2015 年時点で 6.9ha となります。葉山地域には、そのうちの 1 割弱となる 0.5ha が所在しています。

地域別耕作放棄地面積割合(2015 年)



・農業体験(わんぱくスクール)等



資料：JA レーク滋賀 (JA 栗東市) 資料

3. 農業従事者の意向－アンケート調査結果より－

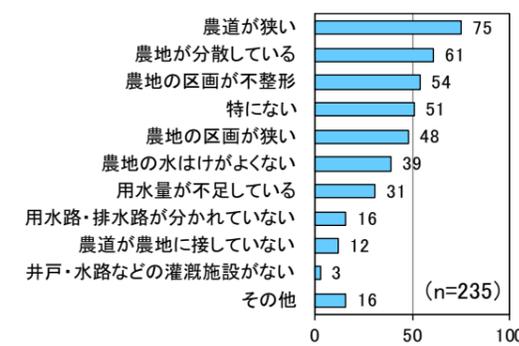
※グラフ中の (n=数値) はサンプル数を示します。

「栗東市の農業に関する農業従事者アンケート調査」栗東市内で農地を所有する農業従事者を対象としたアンケート調査 (令和 2 年 10 月実施、有効回答数 704 票 (回収率 66.5%))

(農業生産基盤の課題)

・農業生産基盤の課題として、「農地が狭い」が最も多く、次いで「農地が分散している」「区画が不整形」などが挙げられています。

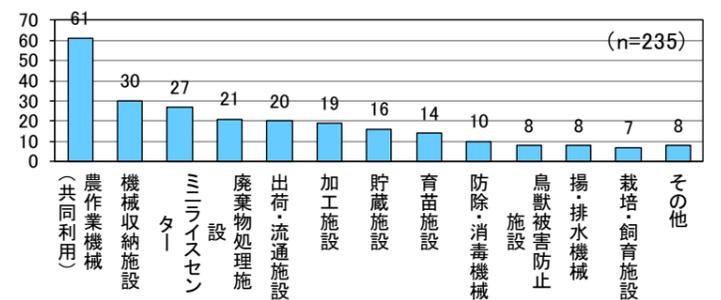
農業生産基盤の課題(葉山地域)



(地域に必要な施設等)

・地域に必要な施設、機械として、「農作業機械 (共同利用)」が最も多く、次いで「機械収納施設」「ミニライセンサー」などが挙げられています。

地域に必要な施設、機械(葉山地域)

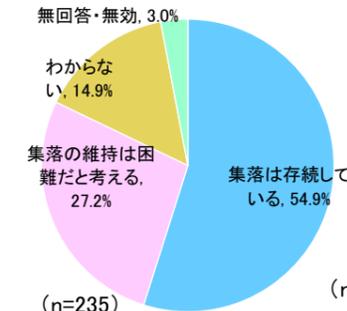


(地域の今後、地域の農地整備の方向性)

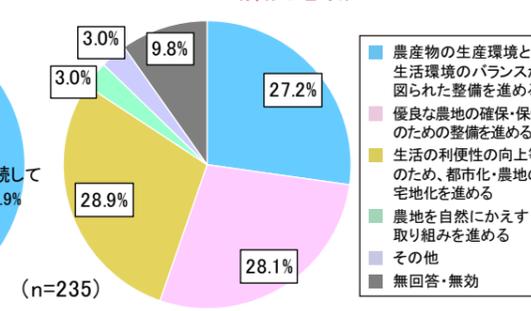
・地域 (集落) の 10 年後の姿について、半数以上の約 55%が「集落は存続している」となり、市全体 (回答者全体：約 52%) と比べて高い割合となっています。

・地域 (集落) の農地整備の方向性として、「都市化・農地の宅地化を進める」に次いで「優良な農地の確保・保全」が多く挙げられています。

地域(集落)の今後(葉山地域)

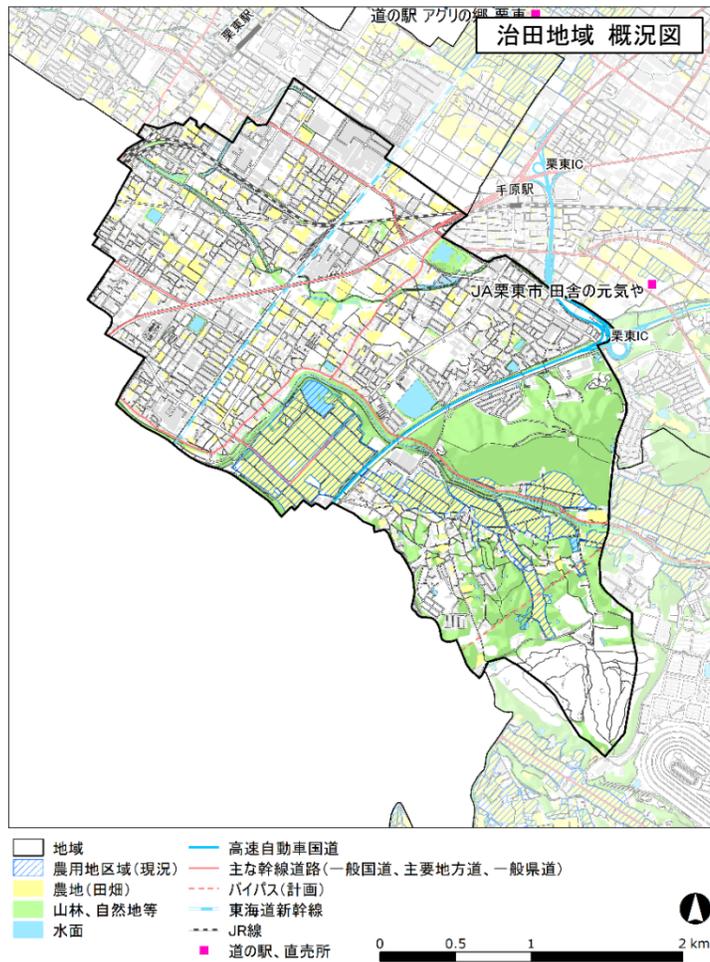


地域(集落)の農地整備の方向性(葉山地域)



栗東市農業振興基本計画検討資料 地域別の概況 治田地域

1. 治田地域の概要

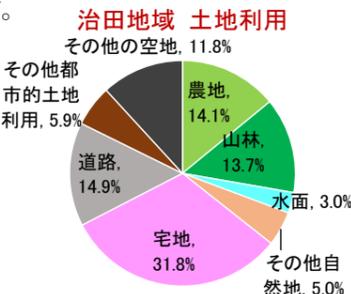


(位置及び地勢)

治田地域は、栗東市中央西部に位置する金勝川と葉山川に挟まれた平地が広がり、栗東ICや隣接するJR東海道本線草津駅など、交通アクセスに恵まれた地域です。

(土地利用)

地域の土地利用は、宅地及び道路が5割近くを占めています。農地は、安養寺山の南、金勝川左岸一帯を中心に1割強を占めています。



※面積はGIS計測による
資料：都市計画基礎調査 (H28)

(人口動向)

地域の人口は、2020年9月時点で27,400人超となります。今後、人口は概ね横ばい～減少傾向が続くと予測され、また高齢化は、2040年には概ね4人に1人が65歳以上となると予測されます。



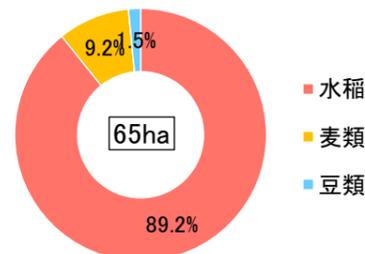
資料：2020年：栗東市資料、2030年～『日本の将来推計人口(平成30(2018)年推計)国立社会保障・人口問題研究所を元に作成

2. 治田地域の農業の現状－統計データより－

(作物別作付面積)

地域における農産物の作付面積は、2015年時点で約65haと市内の各地域との比較で最も少なくなります。うち約9割が水稲、1割弱が麦類となります。

治田地域 作物別作付面積割合(2015年)



(注)販売目的の作付面積(穀類・野菜・果樹)合計居住地以外にある土地(集落外、市外)の作付を含む

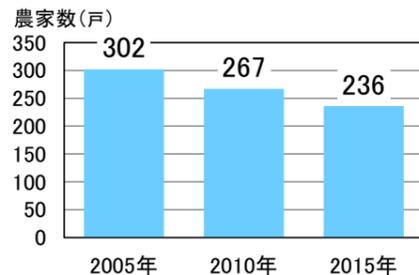
秘匿データは集計に含まれていない
資料：農林業センサス

(農家数、農業従事者数)

地域の農家数は、2015年時点で236戸となり、2005年と比べて8割程度にまで減少しています。

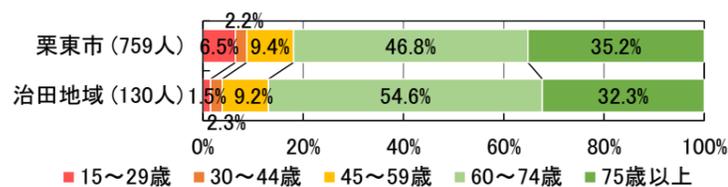
農業就業者の年齢構成をみると、60歳代以上が9割弱を占めており、市全体と比べても60歳代以下の割合が高い地域となっています。

治田地域 農家数の推移



※農家：経営耕地面積が10a以上の農業を営む又は農産物販売金額が年間15万円以上の世帯
資料：農林業センサス

農業就業者**の年齢構成(2015年)

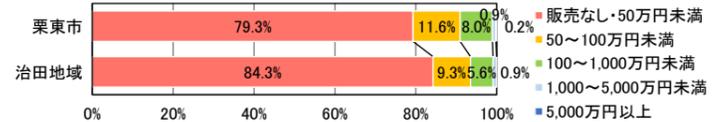


※※農業就業者：主に自営農業に従事した世帯員数
資料：農林業センサス

(農業の規模)

本市は、農産物販売金額が100万円未満の農家が約9割を占めています。治田地域をみると、市全体と比べて50万円未満の農家の割合が高くなっています。

農産物販売金額帯別農家数割合(2015年)



資料：農林業センサス

(その他関連施設、地域の活動など)

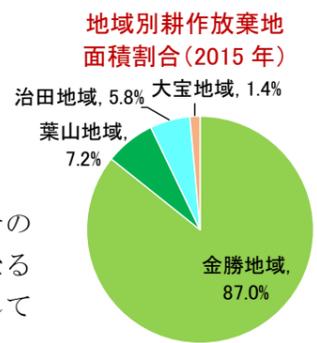
- 農業体験：市民農園(2か所)



資料：栗東市資料

(耕作放棄地)

耕作放棄地は、市全体で2015年時点で6.9haとなります。治田地域には、そのうちの1割弱となる0.4haが所在しています。



資料：農林業センサス

3. 農業従事者の意向－アンケート調査結果より－

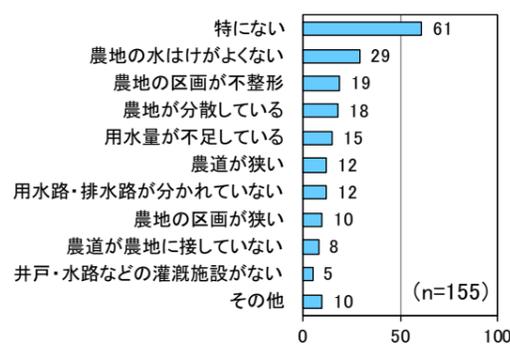
※グラフ中の(n=数値)はサンプル数を示します。

「栗東市の農業に関する農業従事者アンケート調査」栗東市内で農地を所有する農業従事者を対象としたアンケート調査(令和2年10月実施、有効回答数704票(回収率66.5%))

(農業生産基盤の課題)

- 農業生産基盤の課題として、「特にない」が最も多く、次いで「農地の水はけがよくない」が挙げられています。

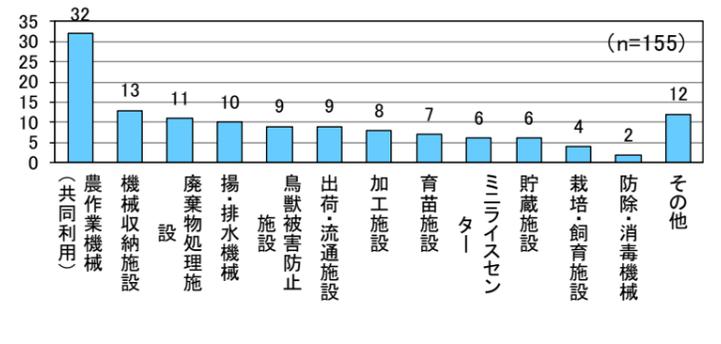
農業生産基盤の課題(治田地域)



(地域に必要な施設等)

- 地域に必要な施設、機械として、「農作業機械(共同利用)」が最も多く、次いで「機械収納施設」「廃棄物処理施設」などが挙げられています。

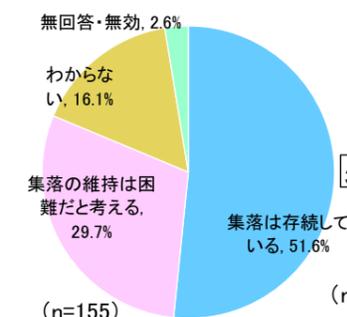
地域に必要な施設、機械(治田地域)



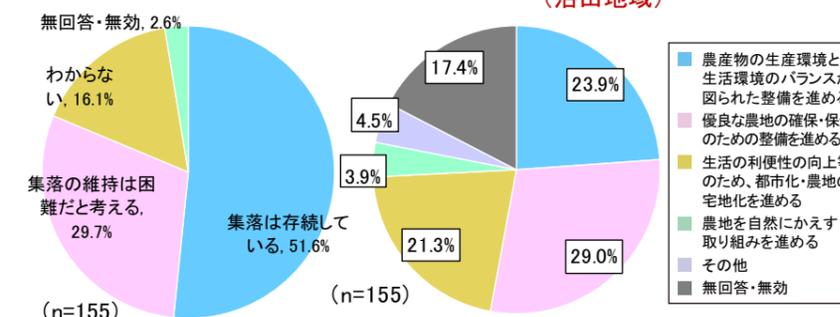
(地域の今後、地域の農地整備の方向性)

- 地域(集落)の10年後の姿について、半数以上の約52%が「集落は存続している」となり、市全体(回答者全体：約52%)と同程度の割合となっています。
- 地域(集落)の農地整備の方向性として、「優良な農地の確保・保全」に次いで「バランスが図られた整備」が多く挙げられています。

地域(集落)の今後(治田地域)

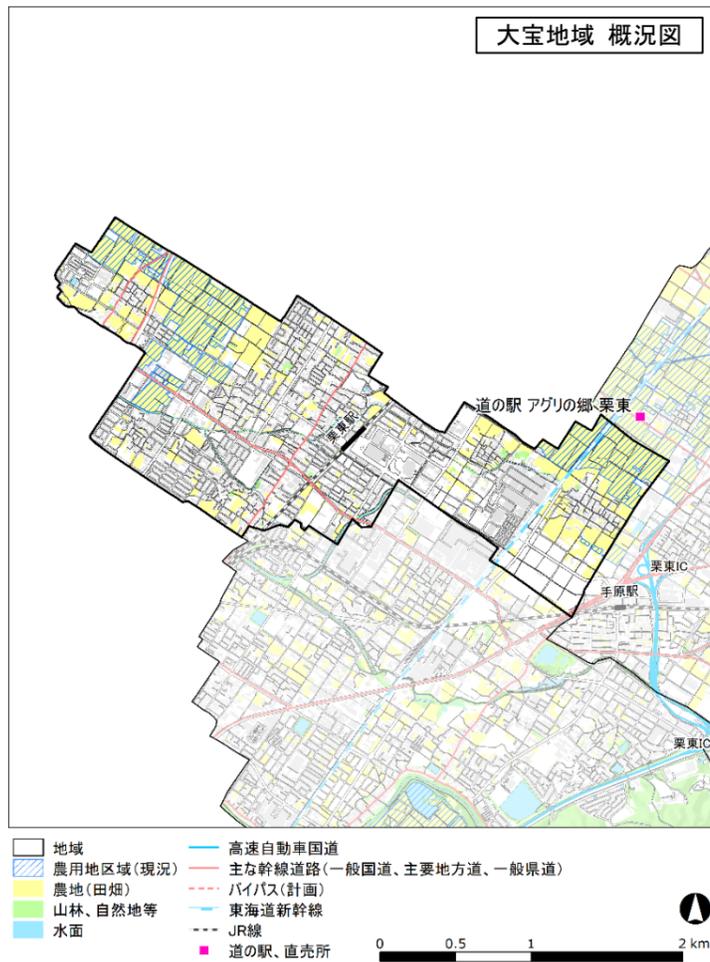


地域(集落)の農地整備の方向性(治田地域)



栗東市農業振興基本計画検討資料 地域別の概況 大宝地域

1. 大宝地域の概要

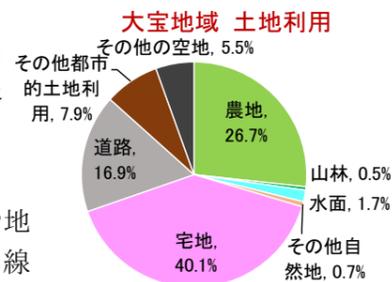


(位置及び地勢)

大宝地域は、栗東市北部に位置する平地で、市街地が広がり、JR 東海道本線栗東駅が所在するなど、交通アクセスに恵まれた地域です。

(土地利用)

地域の土地利用は、宅地及び道路が過半数を占めています。農地は、地域北部の一角や地域南部の新幹線沿線の一角を中心に3割弱を占めています。

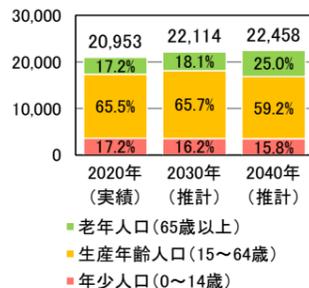


※面積はGIS計測による
資料：都市計画基礎調査 (H28)

(人口動向)

地域の人口は、2020年9月時点で20,900人超となります。今後も人口は増加～横ばい傾向が続くと予測されます。また高齢化は、2040年には概ね4人に1人が65歳以上となると予測されます。

大宝地域 人口(将来推計)



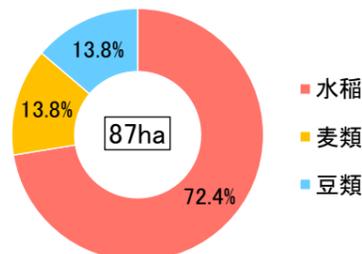
資料：2020年：栗東市資料、2030年～『日本の将来推計人口(平成30(2018)年推計)国立社会保障・人口問題研究所を元に作成

2. 大宝地域の農業の現状－統計データより－

(作物別作付面積)

地域における農産物の作付面積は、2015年時点で約87haとなります。うち約7割が水稲となり、次いで麦類、豆類がそれぞれ1割強を占めます。

大宝地域 作物別作付面積割合(2015年)



(注)販売目的の作付面積(穀類・野菜・果樹)合計居住地以外にある土地(集落外、市外)の作付を含む

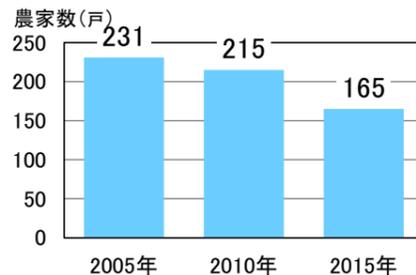
秘匿データは集計に含まれていない
資料：農林業センサス

(農家数、農業従事者数)

地域の農家数は、2015年時点で165戸となり、2005年と比べて7割程度にまで減少しています。

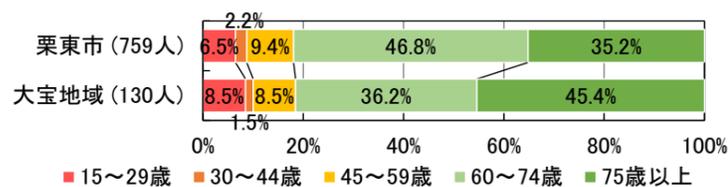
農業就業者の年齢構成をみると、60歳代以上が約8割を占めており、市全体と比べて60歳代以下の割合は概ね同程度となっています。

大宝地域 農家数の推移



※農家：経営耕地面積が10a以上の農業を営む又は農産物販売金額が年間15万円以上の世帯
資料：農林業センサス

農業就業者**の年齢構成(2015年)

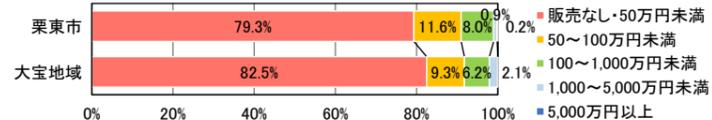


※※農業就業者：主に自営農業に従事した世帯員数
資料：農林業センサス

(農業の規模)

本市は、農産物販売金額が100万円未満の農家が約9割を占めています。大宝地域をみると、市全体と比べて50万円未満の農家の割合が高くなっています。

農産物販売金額別農家数割合(2015年)



資料：農林業センサス

(その他関連施設、地域の活動など)

- 農業体験：市民農園(3か所)

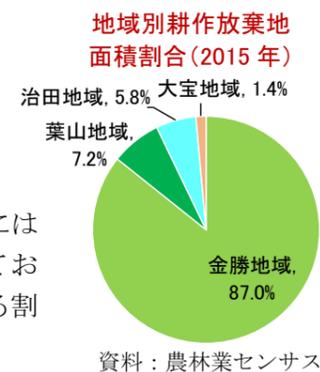


資料：栗東市資料

(耕作放棄地)

耕作放棄地は、市全体で2015年時点で6.9haとなります。

うち、大宝地域には0.1haが所在しており、市全体に占める割合は1%程度です。



3. 農業従事者の意向－アンケート調査結果より－

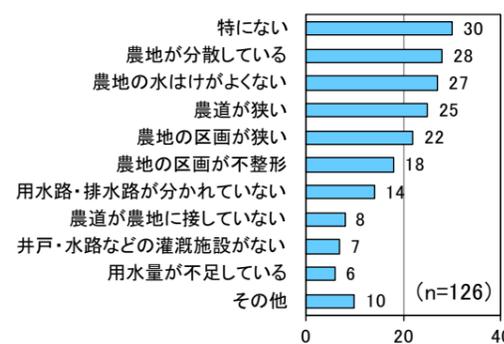
※グラフ中の(n=数値)はサンプル数を示します。

「栗東市の農業に関する農業従事者アンケート調査」栗東市内で農地を所有する農業従事者を対象としたアンケート調査(令和2年10月実施、有効回答数704票(回収率66.5%))

(農業生産基盤の課題)

- 農業生産基盤の課題として、「特になし」が最も多く、次いで「農地が分散している」「水はけがよくない」などが挙げられています。

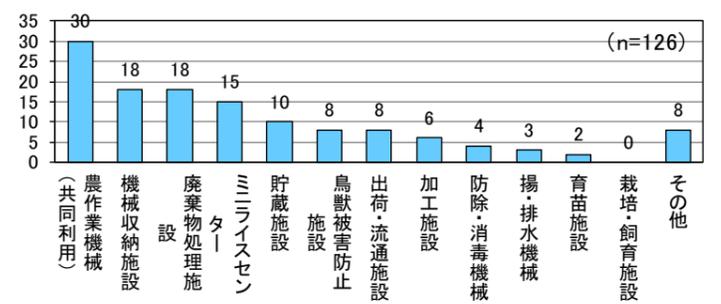
農業生産基盤の課題(大宝地域)



(地域に必要な施設等)

- 地域に必要な施設、機械として、「農作業機械(共同利用)」が最も多く、次いで「機械収納施設」「廃棄物処理施設」などが挙げられています。

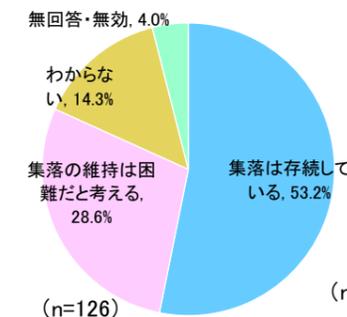
地域に必要な施設、機械(大宝地域)



(地域の今後、地域の農地整備の方向性)

- 地域(集落)の10年後の姿について、半数以上の約53%が「集落は存続している」となり、市全体(回答者全体：約52%)と同程度の割合となっています。
- 地域(集落)の農地整備の方向性として、「バランスが図られた整備」に次いで「都市化・農地の宅地化を進める」が多く挙げられています。

地域(集落)の今後(大宝地域)



地域(集落)の農地整備の方向性(大宝地域)

